グリーンコープは ホームレス自立支援に 取り組みます

自立支援センター内に張り出している求人票を見る

模擬面接を受ける

自立支援プログラムの一環であるセミナーを受講する

世界的な金融不安により、2009年３月までに失職した非正規社員は、約40万人と言われています。実際に職を失い路上生活をせざるを得ない人たちが激増しています。このような状況を受けて、グリーンコープの生活再生事業から社会福祉法人グリーンコープに、生活困窮者のための一時的な避難施設を確保できないかという要請があがってきています。

この問題は、私たちの隣人の問題、そして私たち自身の問題と捉える必要があります。グリーンコープはホームレス自立支援に取り組みます。

ホームレス問題を考える 3

ホームレス問題は解決できます

２００４年９月、北九州市によるホームレス者への自立支援センターが開設されました。その結果支援は急速にすすみました。当初は約５００人だったホームレス者が現在は１８０人に減少し、６５０人以上がアパートでの自立生活をはじめ社会へ復帰しています。こうした自立継続率の高さにおいても、また一旦自立したホームレス者が再びホームレスに戻ってしまう、離職後野宿率の低さにおいても北九州市の取り組みは全国的に群を抜いており、高く評価されています。このことは20年にわたるＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構の長年の心を傾けた取り組みがベースにあるのは言うまでもありません。

福岡県の２大都市の一つである北九州市で画期的な成果があがっている一方で、もう一つの都市・福岡市の支援は「手付かず」といってよい状況です。現在福岡市のホームレス人口は１０００人を超えると言われています。

今やホームレスの問題は、誰もがその危機に直面しかねない状況となっています。同時に、ＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構の取り組みに見られるように、「本人の自立への意思と努力、それを支える仕組みがあれば、誰もが立ち直れる」ことを示しています。

人が人として安心して生き続けていくことができる「セーフティネット」の仕組み作りがあることで、多くのホームレス者が自立の機会を得ることができるのです。その仕組み作りを急がねばなりません。

「抱樸館福岡」を開設します

１９８８年にはじまったＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構の取り組みは、この20年間にさまざまな困難に直面してきました。中でもニンビー運動（not in my back yard-ホームレス支援には賛成するが私たちの地域に支援施設を建てないで！）に対しては、実際に支援の成果をあげ、地域に納得してもらうまで時間をかけるしかありませんでした。

「失業」、「貧困」、「多重債務」、「ホームレス」という問題に、「それは特別な人だけに起きること、自己責任の範囲」とみなす状況が続いてきました。そして、それは今も根強く地域に残っています。

私たちにできること、それは今の社会状況を正確に捉えなおすこと。そして人と人がたすけあう「共助」のシステムを地域の中に作りあげていくことです。その第一歩として、グリーンコープは「ホームレス自立生活援助ホーム『抱樸館福岡』」を開設します。

「抱樸館福岡」開設はＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構との共同です

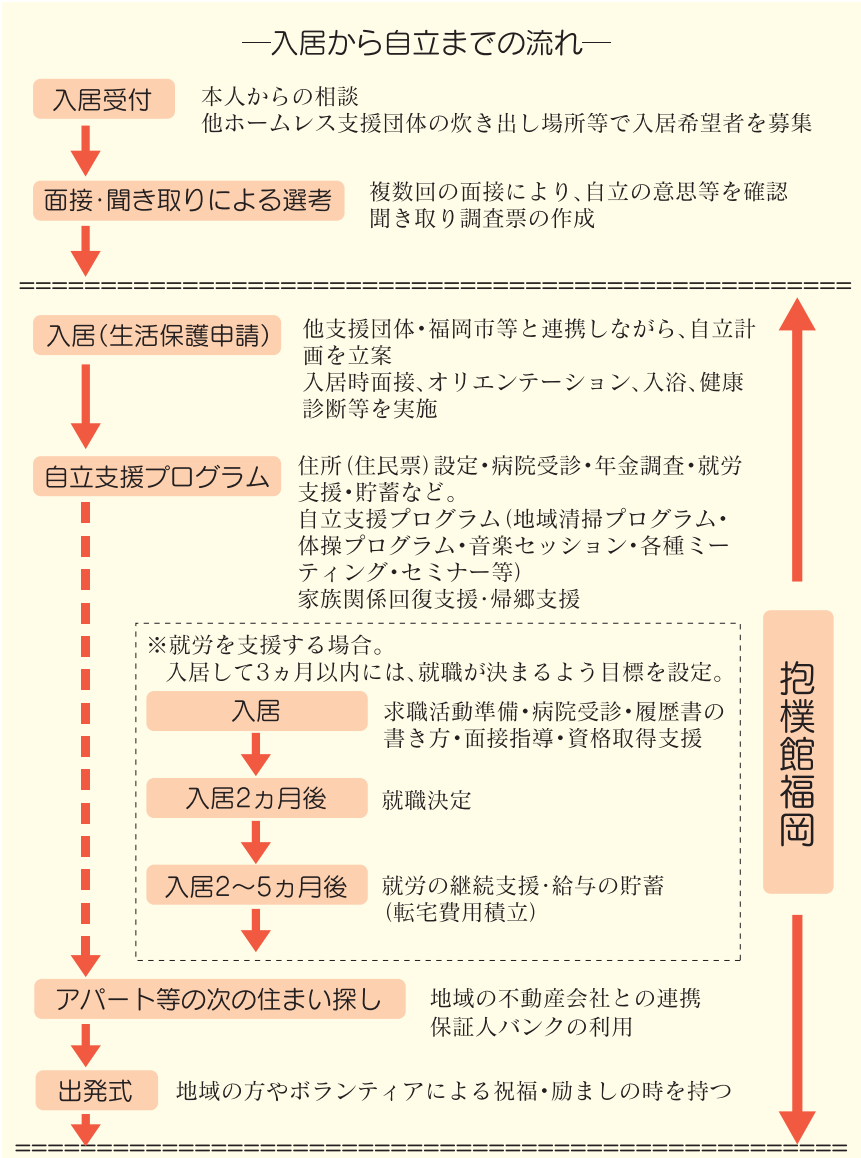
「抱樸館福岡」は社会福祉法人グリーンコープが主体となり、長年にわたってホームレス者の支援を続けてきたＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構と共同ですすめます。

ＮＰＯ法人北九州ホームレス支援機構は、国から「より公益性の高い法人」と認められている「認定ＮＰＯ法人」です。高度な専門知識と豊富な実践経験を持つこの団体と組むことで、地域福祉というフィールドに新たな社会連帯の一歩を築くことになります。さらに、この協働関係をベースに地元福岡の支援団体や社会福祉協議会へ協力を求め、連携を模索していきます。

「抱樸館福岡」の開設はほんの小さな光明です。しかし困難な社会状況を考える時、このほのかな光がホームレス問題を解決し、さらに「たすけあう」地域社会の創造へつながるよう大きなうねりを創り出す光となっていきます。

「抱樸館福岡」事業内容

いのちの危険にさらされている生活困窮者、ホームレスの人々に対して、あらゆる相談を受け付け、住居を提供し、就職や福祉手続きなどの自立支援を行います。

「抱樸館福岡」はホームレス者の自立支援施設ですが、「就職し自立生活に復帰する意思のある人」を対象にします。

その事業資金については生協本体の共同購入事業や店舗事業の収益金は使いません。